やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」（青森）発行

誌　　名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	20 / 2006 / 39-41
タイトル	幻のミチノクスミレ顛末記
著　者　名	二唐壽郎

幻のミチノクスミレ顛末記

第７代　二　唐　壽　郎

[写真1] アイヌタチツボスミレ(ミチノクスミレ)
(黒滝静三氏提供)

やぶなべ会報 17 号で私の叔父佐藤耕次郎(雨山)について拙い文を掲載した。

その中で『叔父が発見したミチノクスミレがなぜ現在はアイヌタチツボスミレとなったのか、そのスミレが現在でも発見地の黒森山で自生しているのか。もし自生しているのなら是非とも見たいものだ』ということを書いた。

さらに、私と又従兄弟に当たる天内康夫さん(第 3 代)の妹靖子さんも植物が好きでいつか機会があったら一緒にアイヌタチツボスミレを探しに行こうと約束していた。

しかし黒森山の風穴地帯(地中の空洞とつながっていて夏でも冷たい風が吹き出て、特殊な風穴植物が自生する場所。青森県内では黒森山と温湯地区の袋が知られている)がどの辺に有るのかも知らないためその機会が無いまま過ぎてきた。

話は変わるが、一昨年の 12 月棟方啓爾さん(第 6 代)から棟方さんの友人の岩淵功氏がすばらしい植物細密画を描いていてそれが 1000 枚以上になっている。
このすばらしい財産をこのまま埋もれたままにしておくのはもったいないので、これに青森県の植物研究の第一人者である細井幸兵衛氏の解説を付けてホームページで紹介していこうという話が持ち上がった。

そこで賛同者が『青森自然誌懇話会』と言う名前の会でホームページを立ち上げ昨年の 4 月から 1 週に 3 種ずつ掲載することにした。(http://thinkaomori.cool.ne.jp/iwabuti/zufu/)すばらしいホームページなので、おそらくやぶなべ会の皆さんはご覧になった方も多いと思う。

その 10 番目にアイヌタチツボスミレが掲載されている。おそらく編集者の棟方さんが私のためにわざわざ早く選んでくれたのだろう。細井幸兵衛氏の詳しい解説で、『なぜミチノクスミレがアイヌタチツボスミレとなったのか』という長い間の謎が解けた。

次に、そのまま細井氏の解説を載せる。

アイヌタチツボスミレ　スミレ科　*Viola sacchalinensis H.Boissieu*

中井猛之進,1922.すみれ雑記(其ニ).植物学雑誌 36;87.で『Viola mutsuensis W.Becker みちのくすみれ(新称)ト云ウノハ青森ノ産デけたちつぼすみれニ似テ居テ側瓣ニ毛ノアルモノデアル。未ダ其標本ヲ見得ナイ。斯ルすみれヲ採収サレタ方ハ何卒東京帝国大学理学部植物学教室ノ押葉庫へ御寄贈ヲ願ヒタイ』と出ている。

明らかにこれはフォーリーが青森県内のどこかで採集した標本に基づいた記録で、ベッカーに送られたものであると判断して良い。

郷土史家の佐藤耕次郎＜号は雨山(ウザン)、この名前のほうが広く親しまれたので、以後、文中で雨山と記す＞は、植物にも詳しく、多くの記録も残しており、佐藤耕次郎，1931．浅瀬石川郷土誌．陸奥郷土会．には『ミチノクスミレ Viola mutsuensis Nakai 菫の一種で、自分は初めて発見したものである。尤も未だ此處より他に全く産地を聞かない。此の種を自分は先年、雑誌園芸の友誌上でクロモリタチツボスミレと假(仮)に命名しておいたが、其後、理学博士中井猛之進氏が植物学雑誌上で上記の如く発表し、和名も上記の如くされた。…』と述べている。学名の命名者を Nakai と間違えているが、確実に中井のすみれ雑記を読んでいる。したがって、雨山がフォーリー以来の第二発見者であり、その地に現在も生育している。 (赤文字とアンダーラインは二唐がつけたもの)

更に佐藤耕次郎，1950．山形郷土物語．にも書いており、その中で『…尤もこの変種に属するものは岩木山の頂上に産するが、それを「タカネアイヌタチツボスミレ」と呼ぶ。…』と記録した。しかし、タカネアイヌタチツボスミレという和名で正式に発表されたスミレはない。

北海道の高山には蛇紋岩変形植物として、アポイタチツボスミレ var. alpina H.Hara があり、胆振、日高アポイ山、日高山系、天塩山系、上川等が記録されている。丈は低く、茎は地表を這い、斜上する。ところが、岩木山の山頂の岩石はデイサイトであり、私が岩木山の頂上近くで見た(May 23 1965)ものは、普通品と区別すべきものではない。

ほかに、根市益三は大間町、平内町、七戸町の山地で採っており、七戸町ではナガハシスミレとの雑種(花 May 28 1993)(成葉 June 30 1993)も見い出した。6 月には不稔であることを確認したので一代雑種である。

これは本文が初めての記録であり、これまで正式発表はされていない。北海道には広く分布しているが本州では珍しくなる。記録では岩手県、山形県に各一ヶ所、長野県の白馬岳、針ノ木岳の二ヶ所があるだけで、青森県は目下五ヶ所で多い方である。

さて、第 2 番目として、果たして細井氏が解説の中に『その地に現在も生育している』というのでこれは是非とも実物を見て写真を撮り、できたら叔父の墓前に報告したいものだと思っていた。

昨年の 4 月 17 日棟方さんから「エゾノリュウキンカの花が咲いたから一緒に行かないか。」と言う連絡が入った。

というのは、ずっと前から残雪の水の流れに咲くエゾノリョウキンカの写真を撮りたいと思っていたので棟方さんに「春になったら連れて行って欲しい。」と頼んでいたからだ。

「エゾノリュウキンカを見るついでに黒森山まで足を伸ばしアイヌタチツボスミレミレも咲いている可能性があるから行こう。」ということだった。

エゾノリュウキンカは棟方さんの案内で、アイヌタチツボスミレは岩淵氏の案内でということになった。

[写真 2,3] エゾノリュウキンカ

[写真4] アイヌタチツボスミレ(部分拡大)
(黒滝静三氏提供)

早速天内靖子さんに連絡し、もう一人黒滝静三さん(日本山岳写真協会会員.青森草と木の会会員、…私の写真の仲間でエゾノリュウキンカの写真を撮りたいので機会があったら一緒に行こうと約束していた) の 5 人で出発した。

幸い天候にも恵まれ、エゾノリュウキンカのいい写真を撮ることができた。

さて、最大目的のアイヌタチツボスミレの方は、昨年の豪雪で車が黒森山の途中で行けなくなり、20 分ほど歩いて風穴地帯へ到達した。

残念なことに少し早すぎてこれがアイヌタチツボスミレではないかなという蕾のスミレを見つけてそれを写真に撮り、この次の機会と言うことで引き返してきた。

その後忙しくて写真を撮りに行くのを逸してしまった。

後日天内靖子さんから 6 月 2 日に黒滝さんと再度行って写真を撮ってきたという連絡があった。黒滝さんからは、写真も送られて来た。

雨山の解説では『花ノ側瓣ニ毛ガアルノデ類似種トワケラレル…』と書いている。
花の部分を拡大すると側瓣の突起毛がよくわかる。

今年は、5 月下旬再度黒森山まで出かけ自分のカメラで叔父雨山がフォリーに次いで青森県で 2 番目に発見した『幻のミチノクスミレ』アイヌタチツボスミレに対面してきたいと思っている。

(快くアイヌタチツボスミレの写真の使用を承諾いただいた黒滝静三さんに感謝します。)